



～卒業生から教育現場の話を聴きました～

学校の先生として活躍されている卒業生による、話を聞く会を開催しました。例年は、対面で話を聴くのですが、今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、WEB で自宅からの受講となりました。卒業生には、大学の講義室で、パソコンの画面越しに語っていただきました。

後輩たちに主に現在勤務している小学校、特別支援学校、幼稚園での、新型コロナウイルス感染防止対策の取り組み、大学時のボランティア経験と学校現場で生かす方法、教員採用試験に向けた対応、子どもとの関わりなどについて熱心に語ってくれました。話しをした後、「応援しています。相談に乗ります。」とやさしさとあたたかさにあふれたメッセージを送っていました。受講した学生にとって卒業生から生の話が聴けたことは、良い学びになりました。

お話しくださった卒業生のみなさん



齋藤 詩央先生
 市原市立若葉小学校 教諭
 大学 発達支援教育学科
 令和 2 年 3 月卒業 9 期生
 千葉県私立市原中央高等学校出身

西村 優香先生
 木更津市立高柳小学校 教諭
 大学 発達支援教育学科
 平成 31 年 3 月卒業 8 期生
 千葉県立木更津高等学校出身



篠塚 みずき先生
 八街市立八街第一幼稚園 教諭
 大学 発達支援教育学科
 平成 26 年 3 月卒業 3 期生
 千葉県立佐倉南高等学校出身

下田 啓加先生
 千葉市立第二養護学校
 大学 発達支援教育学科
 平成 31 年 3 月卒業 8 期生
 青森県立八戸東高等学校出身



受講した学生の感想

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、それぞれの学校では入学式や子どもたちが楽しみにしていた運動会などの行事も行われず、休校を余儀なくされたことを知りました。また、再開されても会話を制限されたり、席の間にシールドを設置したりするなど、子どもたちへの影響は計り知れないと感じました。しかし、先生方は子どもたちのために今できることを工夫して実施していることも知りました。私も、先生方に教えていただいたことを糧に、子どもたちの笑顔や将来を守っていきけるような、幼稚園の先生になりたいです。



野口 紗希
 大学 発達支援教育学科 2 年
 茨城県立鹿島高等学校出身

一年生を担当している先生から、初めて子どもたちや保護者と対面できた日が入学式予定日より 1 ヶ月以上先だったことや、休校中に課題を作り、各家庭にポストिंगしたことなど、コロナ禍の学校現場について深く知ることができました。また、小学校でのボランティア活動は、児童の様子を自分の目で見るチャンスであり、教員採用試験の模擬授業にとっても役立つとのことでした。先輩先生方の話を聞いて、大学在籍中に子どもに関わるボランティア活動をたくさんしようと思うようになりました。



太田 悠馬
 大学 発達支援教育学科 2 年
 千葉県私立千葉黎明高等学校出身

今は、コロナ禍でボランティアができませんが、落ち着いたらたくさん活動して現場の実際の雰囲気を経験していきたいと思いました。本当はこの時期にたくさんボランティアをして、実習に臨みたいと思っていたのですが、新型コロナの影響でできず、実習がとても不安です。今回の講義で先輩方が「授業を大切に」と仰っていたのを聞き、普段の授業が遠隔で気持ちが緩んでいた時もあったなと気付くことができました。教員になるために、日々の授業に真剣に取り組み、社会人になっても生かせるような学びをしていきたいです。



古賀 小梅
 大学 発達支援教育学科 2 年
 千葉県立茂原高等学校出身